

事務局だより

第17回

みえの農村風景 写真コンテスト 受賞作品



最優秀賞

「楽しい綱引き」(四日市市) 中村昭夫



泥いっぱいになり笑顔で綱を引く子どもたちの姿。泥で服が汚れても笑顔でいられるのはそれだけ自然に溶け込んでいるからでしょう。豪快な泥しぶきも写真に勢いを与え、コロナ禍の世の中に元気を与えてくれそうな一枚です。



優秀賞

「待ち遠しい春」(名張市) 上杉裕昭

畑一面にきれいに整列した藁の三角帽子。藁の三角帽子は藁を乾燥させて肥料にするために行うそうですが、あたり一面の雪景色の瞬間を捉えたことで春の訪れへの期待が高まります。



「今年も豊作よ!!」(度会郡玉城町) 板谷一行



いたるところの木に実る色鮮やかな柿。おじさんが持つ収穫袋からも柿の実があふれ出しそうで、切っても切っても終わらないなあと豊作ゆえの嬉しい悲鳴をあげていることでしょう。

みえの農村にスポットをあてた写真を募集して、農業・農村に対する関心を高めていただき、さらに広報冊子、その他の広報資料にこの写真を活用する事を目的とした写真コンテストを実施しました。

46点の力作が寄せられ、令和3年2月10日に6名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞4点、伊勢新聞社賞1点が選ばれました。



特別賞

「収穫の頃」(津市) 加藤和弘



キャベツの収穫風景を見たことある人は少ないのではないでしょうか。畑に突ったキャベツ伐り、ダンボールに詰め軽トラックに乗せる。労力がある作業ということがわかります。そんな中でも澄み切った空気が癒やしとなったことでしょう。

「田植え頃」(菟野町) 辻隆司

すくすく育つ田んぼの稲の緑と満開の芝桜のピンクが織りなす見事なコントラスト。田植え作業をするおばあさんの背中を後押ししてくれているようです。水面に浮かぶ芝桜の姿が加わることでより幻想的になり、収穫が楽しみな一枚です。



「収穫の喜び」(志摩市磯部町) 山本幸平



二人のカップルが抱える稲の束。束の太さを見るとたくさん収穫できたのが伺えます。二人で力を合わせて収穫したことで、より収穫の喜びも大きかったのではないのでしょうか。二人が抱える藁の束がピースをしているようです。

「赤ソバの里」(いなべ市) 伊藤孝司

赤そば畑を家族の先頭で歩く子供の姿。何かを見つけたようで夢中になっている様子が伺えます。人物でなく赤々と花が咲いているそば畑を広く写すことで季節感をより演出しています。



伊勢新聞社賞

「収穫の喜び」(丸山千枚田) 荒木信子

収穫し重ねた稲の束を棒などにかけて自然乾燥させる稲架掛けの作業。この写真は作業途中に一息ついている場面でしょうか。おばあさんの笑顔と棚田を照らす日光がシンクロして輝きが増しています。

